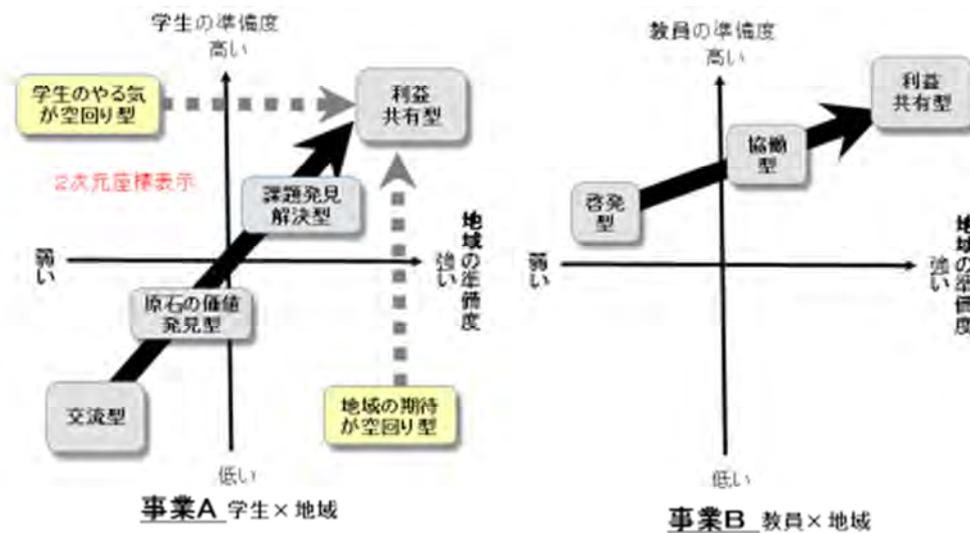


大学等による「おおいた創生」推進協議会
平成 28 年度
地方創生大学等連携プロジェクト支援事業（A, B）公募要領

●事業の趣旨

大学等による「おおいた創生」推進協議会では、平成27年度の文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）」で採択された「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」と相乗して、大学等の持つ研究開発能力や学生の活力を地域社会と連携させることにより、地域の活性化・地域人材のレベルアップ・若者の地域との連携及びそれによる地域定着を推進するために2種類の支援事業（A, B）を大分県から受託して実施するものです。それぞれ、個々の大学の枠にこだわらず、地域の方と広く連携して活動することにより、地方創生につながることを意図しています。

事業Aでは、学生が地域・地域組織と関わることで、学生も地域も共に成長することを意識しています。事業Bでは、教員が地域（社会人）に関わることで、地域（社会人）が発展することを意図しています。



(H27年度COC/COC+全国シンポ 2016/2/28 高知、明治大学教授 小田切徳美、講演資料の一部を土台にして石川敬史)

●事業 A の公募内容

1. 事業 A の名称

「学生による地域ブラッシュアップ」プログラム 2016

(大分県の正式名称：地域連携課題解決支援事業)

大学等の学生（学部生，大学院生）を対象として教員が引率した現場体験型アクティブラーニングにより，学生も地域も共に成長するための事業であり，学生が主体的に活動することも目的としています。

2. 目的

学生が地域の人々との交流を深めることにより，地域への愛着を深め，地域と共に自らも成長することを最終目的としています。このような地域創生につながる学生と地域との関係の概念を図 1（事業 A）に模式的にまとめています。学生と地域との関係には，次の 4 段階に分類できます。

- ① 「お見合い，ワイワイがやがや」の交流型から開始し，
- ② 地域自身も気付いていない原石やその地域の DNA の価値発見段階を踏まえ，
- ③ そこに潜む課題を抽出し，その問題解決段階を乗り越えて，
- ④ 両者がともに成長する利益共有型へと移行する方法。

① から ④ へ段階的に展開する方法によって，時間はかかっても確実に地域創生へとつなげることが重要です。ことを急ぎ，優れた学生や地域を選びすぎり，好ましくない組み合わせを行うと双方が共に幻滅することになり，逆効果となってしまいます。

申請者は，上記を踏まえ，指導する学生のレベル，対象とする地域・地域組織のレベルに合わせて企画してください。

3. 公募対象

公募対象者は「おおいた創生」推進協議会に所属する 8 大学等とし，教員を公募対象者とします。また以下の条件を満たすプロジェクトとします。

- ・大分県内大学・短大・高専の学生（学部生と大学院生）を中心として活動する事業を募集する。
ただし，事業には必ず一名以上の大学等教職員が参加すること。おおむね 8 グループを予定。
- ・事業経費は事業規模に応じて決定する。1 プロジェクトあたり上限 3 5 0 千円とする。
- ・事業はプロジェクトに委託し，事業終了後に報告書を提出する。なお，指導する教員等が事業実施及び経費の管理を行うこと。

4. 「学生による地域ブラッシュアップ」プロジェクト 2016 の実施条件

大学等教職員の指導のもとで、本事業の目的に沿った学生主体の活動を以下の内容のもとで行う。

- ・大分県内、もしくは、大分に由来する地域を活動場とする Off-Campus 教育事業であること。
- ・予算の範囲内で数日程度の連続した活動、あるいは複数日の継続した活動を行うことが望ましい。
- ・事業終了後にキャンパス内において学生の振り返りを集団で行い、コンセプトマップなど協働作成成果を学生グループ同士で討論させ、それら資料を作成すること。
- ・上記振り返り資料を基に、他のプロジェクトと合同の成果報告会において活動報告を行うこと。
- ・事業は 2016 年 12 月末までに終了するものとし、報告書を 2017 年 1 月 10 日までに提出する。

●事業 B の公募内容

1. 事業 B の名称

「おおいたプロモーション」プログラム 2016

(大分県の正式名称：サテライトキャンパスおおいた支援事業)

若者を含む社会人を対象として、知識、経験、技能および着想に富む方などが優良な具体例を交えて講話したり、意見交換の場を設けたりすることで、地域の「ひと、まち、しごと」の向上につながり、外に向けてその良さを発信できる人材を多く育むことが目標です。多くの若手が、地域としての「おおいた」の魅力を「プロモーション」し、外部に発信できるネタに気付くことを期待しています。

事業 B は教員と地域（社会人）の関係です。大学などが若者を含む地域に興味を持った社会人に対して知識・教養を深める場としての講座の提供を行います（図 1）。事業 B の講座は、大学の講義で通常実施されている「ローカル・アイデンティティをこのレベルまで高める」などとする堅くまじめなシリーズものの講義ではありません。仕事帰りや、休祝日のティータイムに手軽に参加でき、楽しみながら地元と暮らしに関する知識を増やす講座を求めています。大学での単位化に必要な回数の実施ではなく、1～2回の実施で完結する講座様式です。目標と評価を事前に決めて実施する大学の講義の作り方ではなく、高等教育機関に従事する教職員の幅広い展望視野で、そして、こだわり視点で企画した地域の「ひと、まち、しごと」の向上に役立つ単発の講座の提供をしていただきます。

2. 目的

今年度は、おおいたの「まち」及び「職場」の認知度と特色を強め、それらが持続的に発展する環境をつくる人づくりに関して幅広い内容で募集します。具体的には、①地域のカネとその循環づくり、②地域の暮らしのしくみづくり、③地域の暮らしの主役づくり（新しい価値観など）に関する分野の講座を提供することが目的です。

3. 公募対象

本事業の趣旨に沿った講座であり、「おおいた創生」推進協議会に所属する8 大学等の教職員が主催する講座であることが必要です。

表 1 に、大学等による「おおいた創生」推進協議会が現在検討中の講座のテーマを参考に示します。以下の講座以外についても積極的応募を期待しますが、表 1 の講座に関連する講座や発展形の講座も積極的に応募していただければと思います。ここでいう受講者としての「若手」は、必ずしも年齢が若い方に限りません。年齢に関係なく新しい取組みを進めていこうとする方、その方にとっての「革新」に一步踏みだす志を持つ方も対象者に含まれます。

表1. 講座テーマ例

講座テーマ 例	備考
街のことづくり戦略 ～他地域の優良事例から学ぶ～	主対象：行政，商工会議所等の若手 主眼：幅広い年齢層が集まる人にやさしく居心地の良い街づくりについて理解する。
自分らしい働き方を知る，教える ～働く先輩と語る～	主対象：就職して1～4年程度の若手および管理・経営者等 主眼：就職後に仕事に悩んでいる方が，同じ悩みを超えてきた働く先輩と接する場を提供する。経営者の方には，働く若者の悩みを知る場となる。
国際観光都市としての戦略	主対象：飲食・サービス業，行政等の若手 主眼：東南アジア圏などからの観光客の増加に対応したハラル認証食品の必要性と戦略について考察する。
おおいたのと食文化と食材 ～その利用方法と効用～	主対象：飲食業，行政の若手 主眼：大分の特徴である食文化である焼酎文化とフグ文化について理解し，効果的利用法と効用につて再認識する。
観光資産としての大分のコンテンツを知る ～その理解と有効利用～	主対象：飲食・サービス業，行政等の若手 主眼：歴史的価値，歴史と地域の在り方の関係を学び，観光資産としての位置づけを理解することによって，歴史資産を観光資産として位置付けた考え方を身につける。
人の動線を意識したビジネス戦略	主対象：飲食店・ホテルなどのサービス産業の若手 主眼：自発的(能動的)人的連携による活性化を引き起こし，人の動き流れを理解したきめ細やかな対応を集約的に行うことを意識できるようにする。
地域産業界と過疎地域のニーズを対象とした講座	COC+事業の大分を創る科目「国際健康コンシェルジュ養成講座」の一部提供など。

なお，上記テーマの講演者が，初日，大分駅近くのホルトホールで講演し，翌日は地域のマチやムラに出向いて同じ話を行うなども可能です。

4. 「おおいたプロモーション」プログラム2016の実施条件

(1) 公募対象者は「おおいた創生」推進協議会に所属する8大学等とし，以下の条件のもとで活動できることが必要である。

- ・ホルトホールなど大分駅近郊の会場使用と，若手を含む社会人を対象とすることを原則とする。
- ・COC+事業に関連した大学などの教職員をまとめ役か，講演者として組織する。
- ・おおむね6講座を予定。
- ・経費は1つの講座当たり300千円とし，予算内で実施する。
- ・事業はプロジェクトに委託する。受託したプロジェクトが実施主体となつて，講座実施及び経費の管理を行う。
- ・講座など終了直後に，有志による講師を交えた意見交換会を行う。また，講座及び意見交換の内容を書面で記録し，報告書に添付する。
- ・2016年12月末までに実施し，講座終了後，2週間以内に報告書を提出する。

●事業 A および B の事業予算と公募方法

1. 対象経費

本事業経費は「大学等による「おおいた創生」推進協議会」がその管理運用を大分県から受託し、COC+大学の^{大分大学}が、実質上の運用管理を行う。対象となる事業経費は、プロジェクト実行における地域活動等に係る経費とする。なお経費に関しては各大学の規程によるものとする。

表 2. 事業経費

経費名目	内容
人件費	講座運営にかかるバイト料を規定により、実費を計上する。
報償費	規定により、講師等の実費を計上する。
旅費	規定により、講師等の指導者及び学生に関する実費を計上する。
食糧費	規定により、講師等の実費を計上する。
借り上げ料	施設等の会場、移動のための貸し切りバス等の実費を計上する。
印刷製本費	募集チラシ等の作成に関する実費を計上する。
役務費	規定により、実費を計上する。
消耗品費	規定により、事業に必要な実費を計上する。

2. 公募方法

(1) 応募日程

- ① 4月下旬に応募に関する要項等が決定次第に募集を行う。
- ② 6月上旬に選定委員会で採択を決定する。
- ③ 採択決定後に速やかに事業を開始する。

(2) 応募方法

別紙様式①および様式②の申請書類を作成し、電子ファイルにより提出する。

(3) 提出先

大分大学 学生支援部教育支援課 教育推進グループ

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

E-mail: kyosieho@oita-u.ac.jp [TEL:097-554-7132](tel:097-554-7132) (直通) FAX 097-554-7445

様式①

大学等による「おおいた創生」推進協議会
地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 A 申請書

大学等による「おおいた創生」推進協議会 殿

申請者に関する事項

学校名

所在地

申請者職・氏名

連絡先 電話

Email

「学生による地域ブラッシュアップ」プログラム 2016（大分県正式名称：地域連携課題解決支援事業）について、以下のような計画で実施したいので申請します。

1. 申請する事業名
2. プロジェクト体制
 - (1) 指導者一覧表
 - (2) 連携企業・自治体等の名称
 - (3) 活動地域又は企業等の名称
3. 対象学年及び人数（予定）
4. プロジェクト事業の目的
5. プロジェクト事業計画
6. 期待する事業成果

様式①

大学等による「おおいた創生」推進協議会
地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 B 申請書

大学等による「おおいた創生」推進協議会 殿

申請者に関する事項

学校名

所在地

申請者職・氏名

連絡先 電話

Email

「おおいたプロモーション」推進プログラム 2016（大分県正式名称：サテライトキャンパスおおいた支援事業）について、以下のような計画で実施したいので申請します。

1. 申請する講座名
2. プロジェクト体制
 - (1) 講師・指導者等一覧表
 - (2) 連携企業・自治体等の名称
 - (3) 利用施設・共同参画企業等の名称
3. 対象者及び人数（予定）
4. プロジェクト事業の目的
5. プロジェクト事業計画
6. 期待する事業成果